関西学院
KWANSEI GAKUIN

2025 年度　事業計画

2025 年 3 月 31 日

学校法人関西学院　総合企画部

Kwansei Grand Challenge 2039／中期計画について

関西学院（以下本学）は、創立 150 周年を迎える 2039 年を見据えて、ありたい姿・あるべき姿を示す「超長期ビジョン」と、前半 10 年間（2018-2027）の方向性を示す「長期戦略」からなる「Kwansei Grand Challenge 2039」を掲げています。この長期戦略を具体化するため、教学に関する大学執行部、各学部・研究科、各学校の「実施計画」と、経営に関する財政、人事、建設、情報化の「基盤計画」からなる中期計画を策定・推進しています。

本学の使命（ミッション）は「“Mastery for Service”を体現する世界市民を育成する」ことにあります。そのために、卒業生が「真に豊かな人生」を歩めるようにすることを学院の教育成果としています。知識・能力を備え、よき人間関係を築き、所属する組織に誇りを持ち、目標を持って生き、仕事に高い意欲で取り組んでいる。そして、自らを律する「強さ」と、誠実さ・思いやりなど人格の「品位」を兼ね備え、隣人・社会・世界に貢献する――。これを「真に豊かな人生」であると考え、その必要条件である、卒業段階での「学修成果の修得」「学生の質の保証」「質の高い就労」を長期戦略の主要目標に定めました。大学、各学部・研究科、各学校はこれらの目標に向かって独自の施策を立案し、機構等の各部署と協力・協働して遂行しています。

2025 年度の事業計画について

本学の中期計画は、3 年ごとに取り組み期間（フェーズ）を設定しています。毎年度の進捗点検・評価及び翌年度の計画改善・見直しに加えて、各フェーズの最終年度には、長期戦略のテーマごとに、より広範な視点で計画の進捗確認と見直しを行う Total Review を実施して、柔軟で動的な内部質保証サイクルを回しています。

2025 年度の計画策定に向けては、第 2 フェーズ（2022－2024）までの取り組みについて Total Review を行い、各計画の進捗および成果を検証するとともに、さらなる外部環境・内部環境の分析を踏まえつつ、今後の課題を抽出しました。そのうえで、第 3 フェーズ（2025－2027）において注力すべき 7 つのテーマをピックアップし、その中でも特に重要な 3 つのテーマを「最重要施策」、それ以外を「重要施策」として次のとおり掲げました。2025 年度は第 3 フェーズの開始の 1 年として、本学の改革を推進していきます。

最重要施策	**（1）王子キャンパス（仮称）開設準備の推進**
	（2）国際化の推進
	（3）学部教育プログラムの改革
重要施策	**（4）分野再編の推進**
	（5）アントレプレナーシップ教育の推進
	（6）研究ブランドの確立
	（7）サステナビリティ戦略の推進

〈最重要施策〉

（1）王子キャンパス（仮称）開設準備の推進

予算：10,275,100 千円

2029 年 4 月に兵庫県神戸市灘区の王子公園内に学生規模約 4,000 人の新キャンパスを設置する。

【背景および長期戦略（2025-2027）の概要】

本学は 2023 年度、神戸市から王子公園再整備に伴う大学設置・運営事業者に選定されており、2029 年度に神戸市灘区王子公園エリアに新キャンパスを開設することを計画している。

2025～2027 年度の 3 年間は、ソフト面（教学、その他キャンパスで提供する各種サービス等）の詳細決定、ハード面（施設）の整備を通して 2029 年度の開設に向けた準備を進める。

【2025 年度の主な取り組み】

①教学：内容の決定　等
②施設：基本設計、実施設計、解体工事　等
③運営：事務組織・体制の詳細検討　等
④地域連携：地域連携に関する協議、協力関係の構築（キャンパスの活用、地域の国際化に関する連携等）　等

（2）国際化の推進

予算：1,243,159 千円

「2025 年度-2027 年度 国際化推進方針」に基づき、中長期的な国際化推進に向けて各種基盤体制を構築する。派遣・受入・国際共修の好循環を確立する。

【背景および長期戦略（2025-2027）の概要】

国内学生の派遣では、量的規模の維持と質の向上を図り、特に中長期留学促進に向けた具体的取り組みを推進。留学生の受入では、SGU で取り組んだ「融合（Fusion）」を本学の理念や特色を踏まえて発展させ、国内学生と優秀かつ多様な留学生がキャンパス内で共に学ぶ「国際共修」プログラムを導入する。学生に対しては、グローバルチャレンジ制度の枠組みを通じて派遣、受入、国際共修を体系化のうえ推奨しデジタル証明にも対応する。さらに、約 320 校に上る協定校においては、中核となる戦略的拠点校を定め、教職員交流を含む重層的な人的交流を活性化させる。

【2025 年度の主な取り組み】

①派遣：中長期留学増加策開始、英語検定試験・対策講座の改編と体系化、グローバルチャレンジ推進費の支給、緊急留学支援金を含む奨学金制度の見直し検討　等
②受入：留学生入試入学定員枠の設置、留学生就職支援強化策検討、留学生受入事務体制強化に向けた検討、在留管理業務基盤の強化、英語学位コース拡充に向けた学内関係部局との意見交換　等

③国際共修：国際共修科目拡充、授業支援検討、学外機関との国際共修 PBL 候補先開拓　等
④国際化推進基盤体制：戦略的協定締結内容検討、協定校との交渉開始、海外拠点の見直し、グローバルチャレンジの体系化、関学ウェブサイト（多言語サイト）の充実化、国際的諸活動の学内外発信に向けた広報体制構築、国際連携機構事務組織体制の在り方検討　等
⑤Cross-Cultural College Certificate Program 修了促進・進捗管理強化、男子 3 寮・聖和寮の留学生入居比率向上、有光寮等の日本人入居比率向上、RA 学生の国際理解教育の実施、グローバル人材育成研修の見直し　等

（3）学部教育プログラムの改革

予算：1,013,153 千円

大学における学部・研究科の課題を抽出し、その解決プランを遂行する①「学部・研究科の中期計画」にもとづき、学部における魅力ある教育プログラムの改革施策を推進する。また、既存の②「学部教育改革施策」を継続実施する。

【背景および長期戦略（2025-2027）の概要】

①「“Mastery for Service”を体現する世界市民の育成」に向けて、内部質保証の観点から、教育プログラムの編成・実施に責任をもつ組織が、各プログラムの取組状況や学修成果を定期的に分析・評価し、その結果に基づいて、改善・向上を図ることが必要である。内部質保証の PDCA サイクルをより高い水準で回すことを通じて、教育プログラムの改善・改革を促進し、諸課題を一つずつ解消していくことで本学の教育の魅力を高めていく。
2024 年度から、学部・研究科の中期計画策定の取り組みを実質化するため、各学部・研究科が学修成果の把握・分析を踏まえ、改善計画を策定し、学院全体のリソース（予算・人員）配分と連動させて、次のアクションにつなげるという自律的な改善サイクルを回す仕組みへと刷新した。中期計画の取り組みを通じて、「学修成果を基軸に据えた内部質保証の仕組みとその実質性」を担保することこそが第 3 フェーズの中心事項となる。
②本学では、2019 年に「学部教育改革施策」を創設し、（ａ）魅力的な教育プログラムの新設、（ｂ）教員体制の強化、（ｃ）学費改定、をセットにした教育改革に、法学部・商学部・経済学部が順次取り組んできた。第 3 フェーズにおいては、学部教育改革施策に取り組む 3 学部の教育改革を進めることに加え、新たに社会学部の教育改革を策定する。

【2025 年度の主な取り組み】

各学部・研究科が策定した「学部教育改革施策」及び「中期計画」に基づき、専門性の特長を生かして外部機関等との連携なども含めた教育機会の拡充によって、より広範な学生の学修成果を向上させ、競争力の強化にも寄与する施策を中心に推進する。特に学院全体の最重要施策に直結する各学部独自の国際プログラムの拡充計画については、全学のグローバルチャレンジ推進施策の拡充において対応する。また、競争力強化のための広報計画は、大学ウェブサイトのリニューアルも進められていることから、全体最適の観点を重視して全学集約によって推進することとする。

〈重要施策〉

（4）分野再編の推進

予算：131,768 千円

2021 年の神戸三田キャンパス（以下、KSC）再編活性化の継続実施に加え、デジタル・グリーン等の成長分野における再編構想を立案し、本学ならではの教育の魅力を高める。

【背景および長期戦略（2025-2027）の概要】

国は「デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成」に向けて総額 3,002 億円の大規模な財政支援を行っており、学部再編に必要な経費を最長 10 年、最大 20 億円程度まで支援する事業の公募に対し、2024 年 7 月までに計 207 校が選定されている。国の動向に沿って、産業界の人材需要の変化、受験生の志願動向等を勘案した教育改革及び学部・学科の再編・新設を常に検討し、具体化する必要がある。

本学では、2021 年に KSC の再編に取り組み、KSC の独自性を打ち出して先進的な教育・研究の推進をめざしてきた。第 3 フェーズにおいては、2025 年度に理工学研究科博士課程前期課程に建築学専攻を設け、収容定員を増加することに加え、学生寮とインキュベーション施設からなる複合施設「KSC Co-Creation Village【C-ビレッジ】」が開設されることを契機に、キャンパス全体のさらなる活性化による新たな教育価値の創造を促進し、“Borderless Innovator”を育む教育・研究を推進させる。

【2025 年度の取り組み】

①KSC の再編・競争力強化

理工学研究科博士課程前期課程の再編・拡充や KSC Co-Creation Village【C-ビレッジ】開設等を中心とした情報発信、教育分野再編の立案により、KSC の魅力を高める。

②教育分野再編

デジタル・グリーン等の成長分野の学部学科新設に関する方針の検討を進める。

（5）アントレプレナーシップ教育の推進

予算：60,139 千円

アントレプレナーシップの修得や発揮を希望する学生に対して、同窓生、自治体、企業と連携してプログラム等の提供を行い、アントレプレナーシップ教育及び起業支援の取り組みを加速させる。そのための中核施設として KSC インキュベーション施設「Spark Base」を開設、運営する。

【背景および長期戦略（2025-2027）の概要】

急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出していく精神（アントレプレナーシップ）を備えた人材の創出が必要である。そのために、大学は研究成果の活用も含め、スタートアップやスモールビジネス、地域特有課題の解決など、創造したい未来・解決したい課題に応じ、実際に事業を進めていくにあたり必要な専門知識や機会を学生に提供する必要がある。さらには、希望するすべての学生がア

ントレプレナーシップ教育を受講できる環境の実現が望ましい。

本学では「起業」や「新規事業に挑戦する」ために必要なマインド・知識・スキルを身につけるための授業やプログラム等を提供している。2025 年 4 月には KSC 近接地にインキュベーション施設と学生寮を併設した複合施設を開設し、①起業家育成②研究成果の社会実装③地域課題の解決に取り組む。兵庫県や三田市とも連携協力協定を締結し、KSC ならではの郊外型インキュベーション施設をめざす。

【2025 年度の主な取り組み】

①アントレプレナーシップ教育に資する各種施策の実施

Kwansei Gakuin STARTUP ACADEMY、個別メンタリング等を含む「起業支援プログラム」の実施、アントレプレナーシップ教育プログラムの新規企画・実施

②KSC インキュベーション施設「Spark Base」の運営体制の構築・整備

（6）研究ブランドの確立

予算：1,617,584 千円

既存の各種研究助成制度を基盤にしつつ、チーム研究の組織化を指向した戦略的投資によりシフトする。これにより、科研費等外部研究資金獲得額、研究成果の社会実装等、大学としての研究力を示す各指標を向上させることで、研究ブランドを確立する。

【背景および長期戦略（2025-2027）の概要】

本学では、「大学の研究力」を示す指標（科研費をはじめとする競争的研究資金の採択数・額、国際的論文数、産学連携関連等）をベースに、本学の研究者・分野特性を考慮しつつ各指標の設定を行い、各施策に取り組んできた。組織体制の構築や個別各施策の策定・実行については概ね順調に推移しているものの、設定した各指標の実績値は決して芳しいものではない。

本学の研究ブランドを確立するため、「大型外部資金獲得等を加速させるチーム型研究の更なる推進」を柱に「研究力向上に資する新組織（事業会社）の設立」等の他の施策を連動させることで、各指標の目標値達成（＝大学の研究力向上とブランドの確立）をめざす。あわせて、ブランドの確立に資する取り組みを大学として選択的に発信する仕組みの構築をめざす。

【2025 年度の主な取り組み】

①大型外部資金獲得等を加速させるチーム型研究の更なる推進

②国際的に評価の高い研究成果の創出

③恒常的な発信を可能とする研究広報体制の構築

（7）サステナビリティ戦略の推進　予算：13,718 千円

学術・参画推進・経営・計画管理の 4 分野において、実質的なサステナビリティ（SDGs を含む）を推進することにより、「“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民」の養成を促進するとともに、現代の地球規模課題に対する施策を講じる。

【背景および長期戦略（2025-2027）の概要】

本学は、2019 年に SDGs 推進本部の設置と同時に「関西学院大学 SDGs 宣言」を発出し、教育・研究・経営・神戸三田キャンパス・統括の 5 分野において実施計画を推進してきたが、世界に目を転じると、2019 年以降も地球温暖化による気候変動および生物多様性の喪失が依然として深刻化している。

地球環境および人間社会のサステナビリティ（持続可能性）の担保がかつてなく緊要となっている現代においては、あらゆるアクターによる倍旧の貢献が求められており、高等教育機関も例外ではない。過般来、欧米を中心に世界中の大学が気候アクションプランやサステナビリティ戦略を策定し、キャンパスにおけるネットゼロ及びゼロウェイスト等の目標達成に向けて具体的な施策を推進している。また、近年は Times Higher Education などによる国際的な意識調査を通じて、国内外の高校生が進学先の検討にあたってサステナビリティ推進へのコミットメントを重視していることが判明している。

第 3 フェーズにおいては、既存の長期戦略「SDGs の推進」を再編し、SDGs を内包するより広範な概念である「サステナビリティ」の推進に取り組む。国際水準のサステナビリティを推進すべく、学術・参画推進・経営・計画管理の 4 分野で、キャンパス・サステナビリティの基本を踏まえた多岐にわたる施策を推進する。気候変動対策に更に尽力し、学生のみならず教職員も世界市民としての意識を深められる環境を整備する。

【2025 年度の主な取り組み】

新施策の細部に関する検討と並行して、第 2 フェーズの間から取り組んでいた以下の取り組みを継続する。

①学術：脱炭素特別演習科目「Green innovation」の開講、「SDGs スタディーズ入門」の開講
②参画推進：SDGs アイディアコンテストの開催（院内校・継続校との連携）、KG SDGs キャンパスサポーターの活動支援（大阪・関西万博に関わる活動を含む）
③経営：設備の更新による CO_2 排出量削減、廃棄物の削減
④計画管理：ウェブサイトでの情報発信

以　上


KWANSEI GAKUIN
MASTERY FOR SERVICE